

スポーツとメディアの関係性に関する一考察 A study of the relationship between sports and media

1K10C177-2

指導教員 主査 吉永武史 先生

小林達記

副査 宮内孝知 先生

【目的】

本研究は、スポーツとメディアの関係を俯瞰的に考察し、スポーツ実践者を増大させていくためのメディアの在り方について検討していくものである。本研究でのメディアとは、主にテレビを指すものとする。

2011(平成23)年総務省統計局の発表によれば、「スポーツの行動者率は20年間で一貫して低下」しているとされている(総務省統計局HP「統計データ」より)。さらに、以下のような傾向が確認される。

「サッカーの行動者率は上昇傾向、野球とバレーボールは低下傾向」「スポーツの行動者率は、25年前と比較すると、60歳以上で上昇、60歳未満で低下、特に20～30歳代は約20ポイント低下」「水泳やバレーボールなどの行動者率は、特に15～19歳で大きく低下」

(総務省統計局HP「統計データ」より一部抜粋)

以上から、若者のスポーツ離れが進んでいることが推察される。これを食い止めるためにメディアを使った戦略について考えていくことを本研究の目的とする。

【方法】

スポーツとメディアに関係性があるのかを明らかにするために、まずはスポーツ参加率や視聴率に関する文献等によって、実際にスポーツとメディアが関係あるのかについて理論的に検討する。

次に、関東圏内の公立の高等学校2校の生徒(292名)を対象にアンケートを実施する。「スポーツに対する意識」と「周囲のメディア環境」のアンケートを依頼し、高校生がスポーツに対してどのような意識を持っているのか、またそれがメディアとどのように関わっているのかを調査する。アンケートのテーマは、大きく分けて以下の3点である。

①現在行っているスポーツは、メディアからの影響を受けて始めたか否か。

②スポーツ中継番組をテレビで視聴して何を思うか。

③オリンピックが東京で開催されることに関してどのように思うのか。

【結果】

図1は、「テレビからの影響をどの程度受けて現在の部活動に入ったか」についての結果を示したものである。この図から、テレビからの影響を受けて現在の部活動に入った生徒は少ないということが明らかになった。全体の割合でみると、「全く影響を受けていない」という生徒が59%と多い。私自身がテレビで巨人戦を視聴して野球に関心を持ったように、多くの人もそうであると考えていた。しかし、アンケートの

結果からはそのような傾向は確認されなかった。つまりテレビが何らかの行動を起こさせるきっかけに重要ではないということが明らかになった。

また、高校生のスポーツへの関心を調査するために、「スポーツ中継をテレビで観てどのように感じるのか」や「オリンピック決定後のスポーツへの関心」についての調査も行った。結果から、高校生のスポーツへの関心が著しく低いということが明らかになった。

【考察】

本研究では、多くの生徒がテレビからの影響を受けてスポーツを始めるのではないかと予想していたが、実際の調査結果ではそれとは反対の結果が得られた。現代の生徒たちは、テレビからの影響をほとんど受けないという示唆が得られた。このような結果は、生徒たちの趣味の多様化、メディア環境の多様化が影響しているからではないかと推察した。

本研究の中で行ったアンケート調査では、よく見るテレビ番組に「芸能番組」を選択した生徒が77%に及んだ。「スポーツ」を選択した生徒は少なく、生徒たちの関心がスポーツから遠ざかっていることが考えられる。また調査では、携帯電話の所有率が99%、SNSの利用率が95%となった。高校生のネットへの関心の高さがうかがえた。

上記のような趣味の多様化、メディアの多様化が高校生の関心をスポーツから遠ざけ、スポーツ中継を視聴してもスポーツ参加へのきっかけにならないのではないかと考察した。

【研究のまとめ】

本研究では、研究のまとめとしてメディアを通してスポーツに対して関心を持ってもらうための方策を提言する予定であった。しかし、調査を進めていく中で、そのことは困難であると明らかになった。なぜなら、現代の高校生たちは根本的にスポーツへの関心が低いいため、いくらテレビを使いスポーツ実施率を高めようと方略を立案しても意味のないものになってしまうことが明らかになったからである。

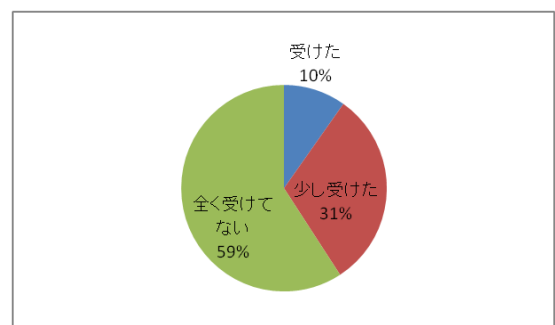


図1. テレビからの影響を受けて部活動に入ったか